

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 言語文化研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 株式会社ピクセラとの共同研究「字幕の機械翻訳における翻訳品質改善の研究」を開始した。文系部局としては極めてまれな産学連携の共同研究で、平成 28 年 11 月 14 日に本学が開催した記者懇談会でその概要を発表したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 文系部局として、株式会社ピクセラとの共同研究「字幕の機械翻訳における翻訳品質改善の研究」を開始したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 「英語力強化タスクフォース」に協力し、本学学生の英語力強化について提言を取りまとめるとともに、「大阪大学マルチリンガル教育センター」(仮称)の構想において、グローバル化に対応した言語教育の改革案を策定したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。